

令和2年8月1日以降に生まれたお子さんの保護者の方へ

ロタウイルスワクチンが定期接種になります

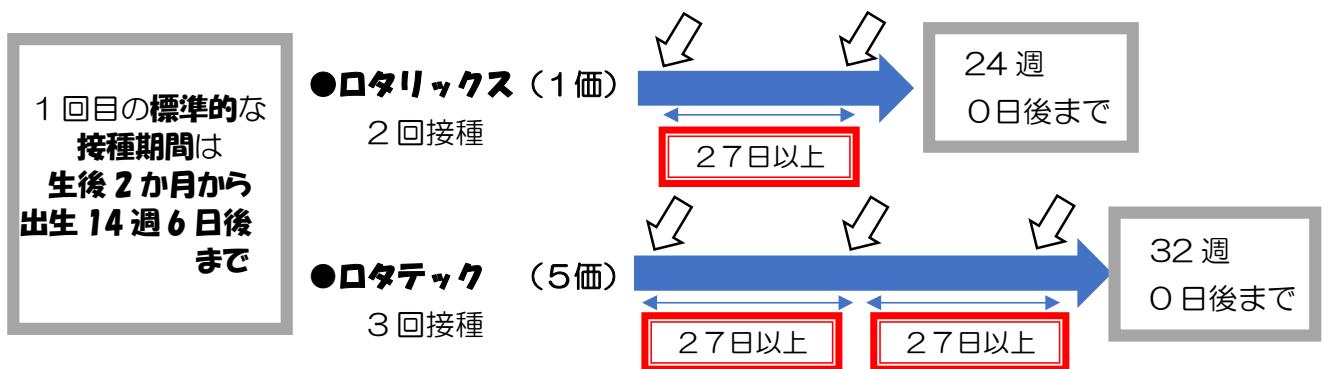
- 対象：**令和2年8月1日以降**に生まれたお子さん
- 接種開始：**令和2年10月1日より**、定期接種（国が接種を推奨するワクチン）になり、無料で接種できます。お子さんの体調の良いときに接種しましょう。
※対象のお子さんであっても9月30日以前に接種した場合は、任意接種（全額自己負担）となりますので、ご注意ください。



- ワクチン：**生後2か月～出生14週6日後（※）までに1回目のワクチンを受けましょう。**

（※）出生日の翌日を1日として算出します

ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも生ワクチン（弱毒化したウイルス）で、飲むワクチンです。2種類とも**予防効果や安全性に差はありませんが**、接種回数が異なります。どちらもロタウイルス胃腸炎の重症化を予防します。どちらのワクチンにするか、医療機関に相談してください。



※途中からワクチンの種類を変更することは原則できません。

※どちらのワクチンも出生6週0日後から接種可能ですが、標準的な接種期間での接種をお勧めします。出生15週0日後以降の初回接種はお勧めしませんが、接種する場合は医師とよく相談してください。

[ワクチンを接種した後]

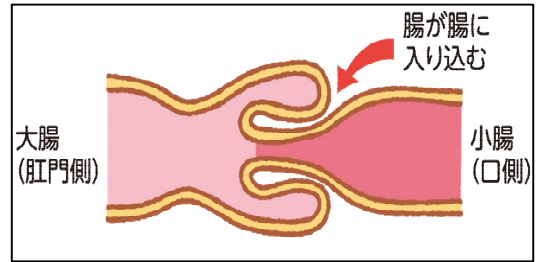
接種後2週間ほどは、赤ちゃんの便の中にウイルスが含まれることがあります。おむつ交換の後など、ていねいに手を洗ってください。

また、**腸重積症**が少し増加すると報告されています。（※裏面もご覧ください）

- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 血便が出る
- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す

接種後（特に1～2週間）は
←このような症状に注意してください。
特に、■の症状があらわれたら、
直ちに医療機関を受診してください。

*腸重積症：腸の一部が隣接する腸管に入り込み、閉塞状態になることです（右図）。ロタウイルスワクチンを接種しなくても、3か月～2歳くらいまでの乳幼児がかかりやすい病気です。発症後早く治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。



【ロタウイルス胃腸炎とは？】

感染力が非常に強く、乳幼児のうちに、ほとんどの子どもが感染すると言われています。下痢や嘔吐は1週間程度で治りますが、脱水症状を起こす場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で、もっとも多い感染症です。一生のうちに何度も感染するウイルスですが、初めての時は特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響をおよぼすこともあり、注意が必要です。

【ワクチンを接種する前】

赤ちゃんのお腹がいっぱいと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前30分ほどは授乳を控えることをお勧めします。

【接種できない場合】

- 明らかに発熱（通常は37.5度以上）している
- 重篤な急性疾患にかかっている
- 今までにロタウイルスワクチンの成分によってアナフィラキシーをおこしたことがある
- 過去に腸重積症をおこしたことがある
- 未治療の先天性消化管障害がある
- 重症複合型免疫不全症がある

【接種方法】

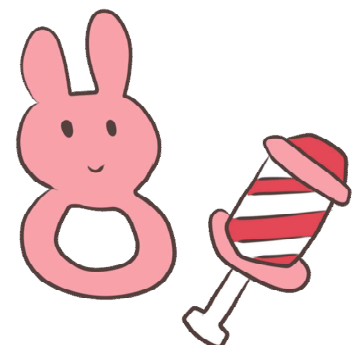
別紙の実施医療機関にお問い合わせの上、母子健康手帳・健康保険証を持参し、お子さんの体調の良いときに接種してください。

事前に、市が赤ちゃん訪問等で配布している「予防接種と子どもの健康」の冊子をよく読んでおきましょう。

他のワクチンと同時接種も可能です。

【他の予防接種との間隔】

- 令和2年9月まで：不活化ワクチンは6日以上、生ワクチンは27日以上間隔をあけます。
- 令和2年10月以後：生ワクチン注射（BCG、麻しん風しん(MR)、水痘) 同士は27日以上の間隔をあけますが、それ以外は間隔の制限がなくなります。



<お問い合わせ> 登別市健康推進グループ 電話 0143-85-0100